

# 災害への備え ～防災意識の向上を目指す～

総務部長 西田 雄司



2022年11月19日(土)、南海トラフ地震を想定した全職種参加型の防災訓練を実施しました。

当院では災害対策マニュアルが策定されていますが、病院棟の改築や組織の変更により、実態と異なる部分が生じており、改訂が必要な状態でした。

そこで、マニュアルを修正し、全ての職員の災害発生時の役割や初動対応を明確にするため、全職種参加型の訓練の計画に至りました。

今回の訓練は「災害対策本部の設置」「役割分担の確認」「被害状況の的確な把握」「傷病者の受入れ・トリアージの実施」をテーマとしています。過去に病棟訓練の経験はあるものの、本部設置やトリアージ訓練は初の試みであり、事前に研修を受講し、災害支援の知識や経験のある医療職を中心として対策チームを組織して臨みました。

当日は、学生ボランティアの参

加もあり、総勢100名を超える大規模なものとなりました。院内放送を皮切りに、各部署による被害状況確認、ライフラインの点検、WEBシステムを用いた全職員の安否確認、トリアージの実施、備蓄の配布方法確認、EMIS(広域災害救急医療情報システム)による行政機関への報告など、様々なタスクを実行しています。



結果として、本部は迅速に設置でき、役割に応じた初動は行えたものの、被害状況を集約することに手間取り、本部が発災直後の指揮や方針決定を行うための報告が効果的に実施できず、課題として



残りしました。また、トリアージは何度も繰り返し訓練することが最も重要と感じました。

今回の訓練では多くの課題も見つかりましたが、事前の準備と対策の重要性を再認識することができました。今後も定期的に訓練を実施し、災害への備えを推進してまいります。



## 災害研修を終えて

近年、毎年のように全国各地で自然災害が発生しており、被災地の状況がニュースに流れるたびに、被害が最小限でありますようにと願う次第です。南海トラフ大地震の発生確率も年々高くなっており、いつ何時、私たちの地域が「被災地」となってもおかしくありません。

当院も、災害対策委員会を設置し、災害対策に取り組んでいます。

災害対策の一環として、今回、2022年10月29日(土)に熊本大学病院災害医療教育センター長の笠岡俊志教授をお迎えして、院内にて災害研修を開催しました。



笠岡俊志教授

看護部主任 救急看護認定看護師 富岡 久美子



58名の院内スタッフが参加し、「災害医療の基本原則」「トリアージタグの記載について」を講義していただき、参加者全員で想定患者のトリアージタグ記載を行いました。



その後、スタッフがそれぞれ患者側や医療者側に扮して、模擬患者を想定したトリアージ訓練を実施しました。リアルな患者想定とスタッフの演技力に緊張しつつも、参加したスタッフ全員で実践訓練に真剣に取り組むことができました。

災害トリアージは日ごとの業務内で実践する機会はなく、初めてタグに記載する職員も多く戸惑う場面もありました。しかし、演習を繰り返す中で、災害時の院内での指揮統制を図りながらの情報共有が重要であることを再認識する機会となりました。

災害はいつ発生するかわかりません。少しでも被害が最小限になるよう、研修や訓練を繰り返し学びを深めるとともに、地域との連携を密にして、病院としての役割を果たせるよう今後も努めたいと思います。



模擬患者を想定したトリアージ訓練